

# 岩手県合同輸血療法委員会

## 令和2年度アンケート調査報告

令和3年3月

### 【世話人会 構成員】

代表世話人

岩手医科大学医学部臨床検査医学講座 特任教授 鈴木 啓二郎

世話人

岩手医科大学医学部内科学講座血液腫瘍内科分野 教授 伊藤 薫樹

岩手県立中央病院血液内科 血液内科長 村井 一範

岩手県赤十字血液センター 所長 増田 友之

岩手県立胆沢病院 血液内科長 吉田 こず恵

岩手県立中部病院 肝胆膵外科長 小山田 尚

岩手県医療局業務支援課 薬事指導監 奥 尚

岩手県医療局業務支援課 看護指導監 高橋 弥栄子

岩手県医療局業務支援課 臨床検査指導監 佐藤 了一

岩手県立胆沢病院看護部 看護師長補佐 久保 光輝

岩手医科大学附属病院 中央臨床検査部 後藤 健治

岩手県立中央病院 臨床検査技師 小穴 夏子

岩手県保健福祉部健康国保課 薬務担当課長 千葉 和久

## 1. はじめに

平成 15 年の「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」の制定に基づき、同年厚労省からの「血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針」等を踏まえて、次第に合同輸血療法委員会が全国都道府県に設置され、その活動を通じて血液製剤の適正使用に係る院内体制の整備が推進されることになった。

岩手県においても民間の方々による同様な活動が開始されたが、その持続的な活動推進のため平成 23 年度に改めて岩手県と岩手県赤十字血液センターにより合同輸血療法委員会を発足し、関連の強い医療機関の輸血関連の代表者を中心に、県をあげて血液製剤の適正使用を推進していくことになった。

このアンケート調査は、個々の医療機関の輸血医療体制の現状を明らかにし、全国の動向と比較する中で、より良い輸血療法について考えていくために本会が発足した平成 23 年度から実施しており、2 年目となる平成 24 年度に「血液製剤の減耗削減について」実態調査の追加を行った。また、4 年目となる平成 26 年度は、「総赤血球輸血量について」実態調査の追加を行い、以後継続して実態調査を行っている。更に、平成 28 年度から、「関係法令への対応状況」実態調査の追加を行った。令和元年度は一部調査項目を変更して、「外来輸血について」調査の追加を行った。

医療機関について、6 年目となる平成 28 年度アンケート調査から、より一層県内における適正かつ安全な輸血療法を目指していくためには、県内における輸血療法の実態等を幅広く把握する必要があるとの認識に立ち、本会参加 28 医療機関としていたアンケート対象医療機関を、岩手県赤十字血液センターから年間総 100 単位以上の供給を受けている医療機関まで拡大し、実施した。

本年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により各医療施設が多忙となると考えられたため、調査対象を本委員会所属 28 病院のみに縮小した。さらに 2019 年の輸血管理体制、および血液製剤の使用状況に絞って調査した（回答率 100 %）。また、アンケートの答えやすさと事務局での集計を効率に行うために、これまでの郵送・FAX に加えて、Web 回答フォームによる集計も行った。

調査にご協力いただいた 28 名の委員とその所属医療機関関係者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

この調査を踏まえて、それぞれの医療機関がどのような位置づけにあるかをご確認頂き、より良い方向性を探ることにより、本県の関連医療機関と地域医療の向上に役立てて頂ければ幸いである。

## 2. 調査方法

### (1) 調査の概要

令和元年（2019 年）1 月から 12 月までの期間を対象として、項目 1 は病床数等の基本的事項について、2 は輸血に関する施設の管理体制について、3 は輸血療法委員会の有無や開催状況について、4 は輸血療法の実績について、5 は貯血式自己血輸血について、6 はその他（自由記述）による調査を実施した。

(2) アンケート調査対象

本会委員 28 人（28 医療機関）を対象として実施した。

(3) アンケート調査方法

① 調査期間 令和 2 年 7 月 1 日～7 月 31 日

② 本会委員 28 人（28 医療機関）を対象として、質問紙および Web 回答フォームにより調査を実施した。

回答数：28 施設、回答率：100.0%

### 3. 調査結果の概要

本アンケート結果の詳細については、個々のデータを参照して頂きたいが、前年の本会アンケート調査結果との比較からうかがえる本県の際立った特徴についてのみの概説にとどめる。また、輸血関連体制などが医療機関の規模によって異なると予想されるため、一部の項目に関しては、病床数 500 床以上（大規模施設）、病床数 300 床以上 500 床未満（中規模施設）、病床数 300 床未満（小規模施設）に分けて集計した。

「1. 病床数等の基本的事項」では、本アンケートの対象医療機関を病床規模別にみると所属施設では 300 床未満の小規模施設の割合が 71%（20 施設）を占める。また、公立・自治体病院の占める割合が全施設の 50%（14 施設）を占めるのが、当県の特徴である。

「2. 輸血に関する施設の管理体制」では、学会認定輸血検査技師は前年と比べ変化はなかった（2 施設 8 名）。

学会認定自己血輸血看護師は、前年とくらべ 1 施設減少したが（2018 年 5 施設・2019 年 4 施設）、人数の変化はなかった（8 名）。

学会認定臨床輸血看護師は、施設数・人数ともに変化はなかった（7 施設・10 名）。

学会認定・アフェレーシスナースは前年と同様に所属施設はなかった。

「3. 輸血療法委員会の有無や開催状況」では、輸血療法委員会の設置数は前年と同様に 25 施設だった。輸血療法委員会の開催回数は、前年と同様に、年 6 回以上の開催が 22 施設であったが、6 回開催に至っていない施設がある。

「4. 輸血療法の実績」では、岩手県での輸血患者は同種血輸血が多くを占める。輸血患者数は、同種血患者数については若干増加したが、自己血輸血患者数、同種血と自己血併用の患者数は、前年と比べて横ばいだった。

岩手県で使用した血液製剤の使用状況は、赤血球製剤、血漿製剤ともに前年と同様であり、血小板製剤は減少した。また、アルブミンの使用量については、等張製剤は若干増加したが、高張製剤は減少していた。

過去 1 年間に廃棄された血液製剤は、赤血球製剤は増加し、血小板製剤、凍結血漿は減少した。

「5. 貯血式自己血輸血」では、岩手県では貯血式自己血輸血を行っている病院は 15 施

設で、前年と変化はなかった。過去1年間の採血単位数は前年に比べ全血採血において減少していた。

「6. その他（自由記述）」では、今後の輸血に関する課題等について、次世代の人材確保等の意見が寄せられた。

（まとめ）

平成23年度アンケート調査開始から10年目となった。その間、本委員会所属医療機関全28施設では、管理体制、安全対策などは前年と同様の水準が維持されており、安全な輸血及び使用の適正化に向けて推進されている。

また、学会認定の各資格取得については、学会認定自己血輸血看護師を配置している施設が5施設から4施設へと減少し、学会認定輸血検査技師、学会認定輸血看護師、学会認定アフレーシスナーズの資格取得についても増加が認められていない。これは、合同輸血療法委員会において各職種の特別講演を実施し周知を継続しているが、資格の背景や医療機関のニーズの点などもあり、周知活動の難しい点などがある。

血液製剤の使用状況は、赤血球製剤、血漿製剤ともに前年と同様であり、血小板製剤は減少した。また、アルブミン製剤の使用については、高張製剤の使用量が減少したことから適正に使用されていると考えられる。

今後も、アンケート調査を継続し本県の現状を各医療機関に伝え、取り上げて行くことが必要である。

以上

# 目次

ページ

## 1. 基本事項

- 1-1. 病床数による分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 1-2. 設立基盤による分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 1-3. 過去1年間の使用製剤・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

## 2. 管理体制

- 2-1. 学会認定輸血検査技師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2-2. 学会認定自己血輸血看護師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2-3. 学会認定臨床輸血看護師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2-4. 学会認定アフレーシスナース・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

## 3. 輸血療法委員会

- 3-1. 輸血療法委員会の設置状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3-2. 輸血療法委員会の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

## 4. 輸血療法の実績

- 4-1. 輸血患者数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 4-2. 血液製剤の使用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 4-3. 血液製剤の廃棄状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 4-4. 院内同種血採血の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 4-5. 診療科別使用量の把握・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

## 5. 貯血式自己血輸血

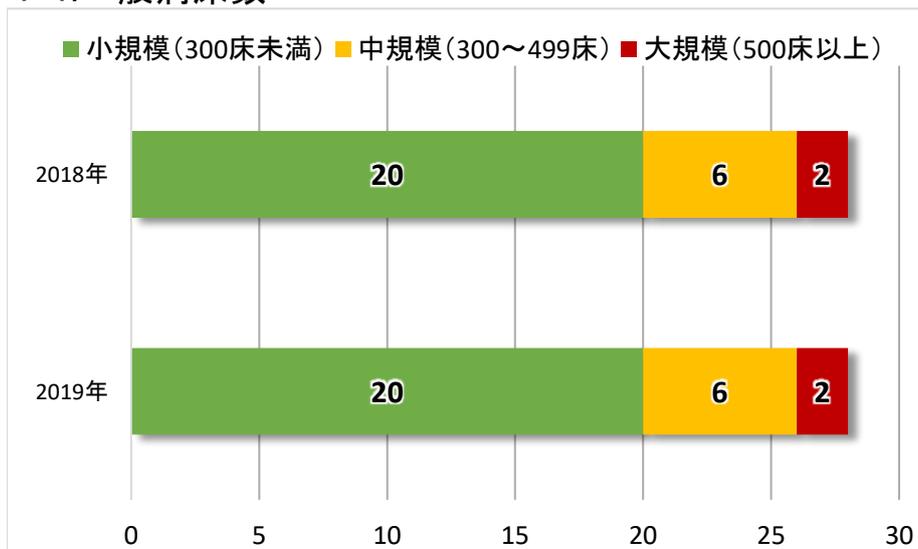
- 5-1. 貯血式自己血輸血の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 5-2. 貯血式自己血輸血の採血単位数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 5-3. 貯血式自己血の廃棄状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

## 6. その他

- 6-1. 輸血に関する課題、本委員会でとり上げてほしいテーマ・・・・・・・・ 7

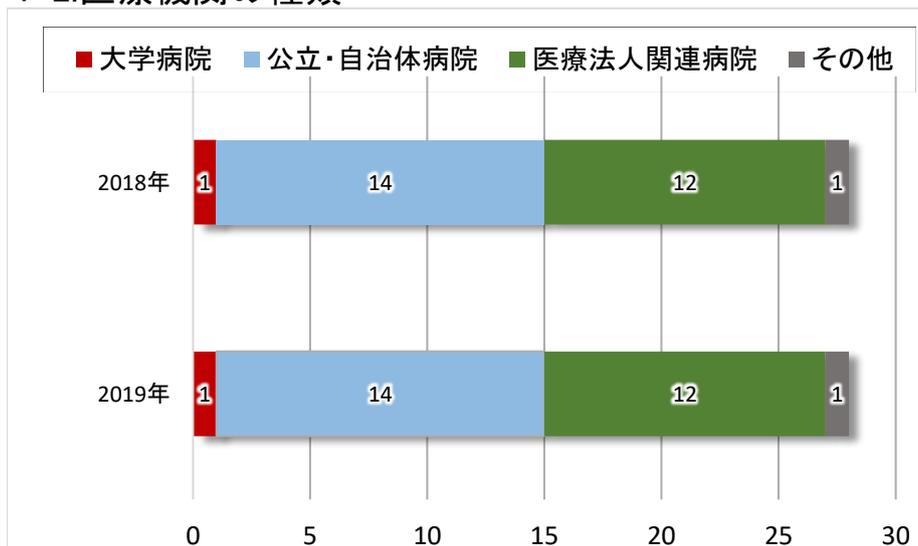
# 1.基本事項

## 1-1.一般病床数



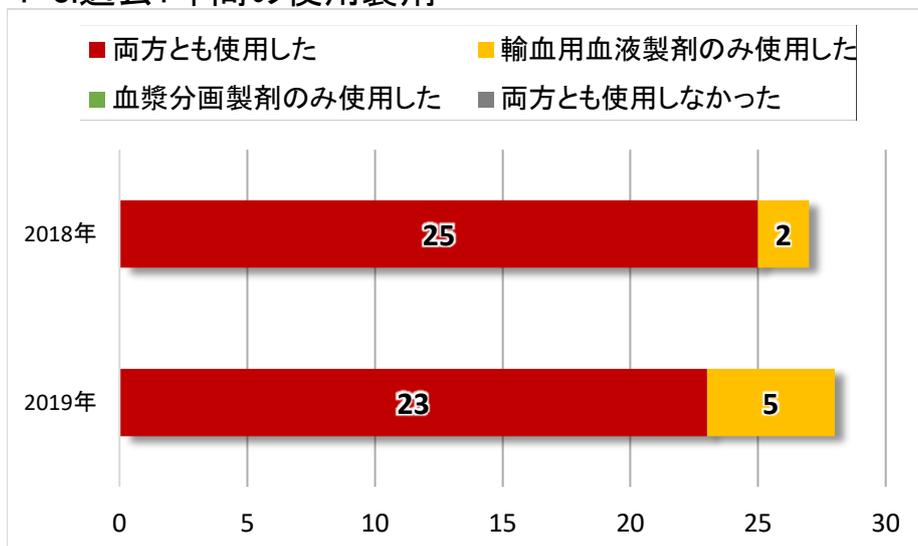
2018年と比べ、変化はなかった。

## 1-2.医療機関の種類



2018年と比べ、変化はなかった。

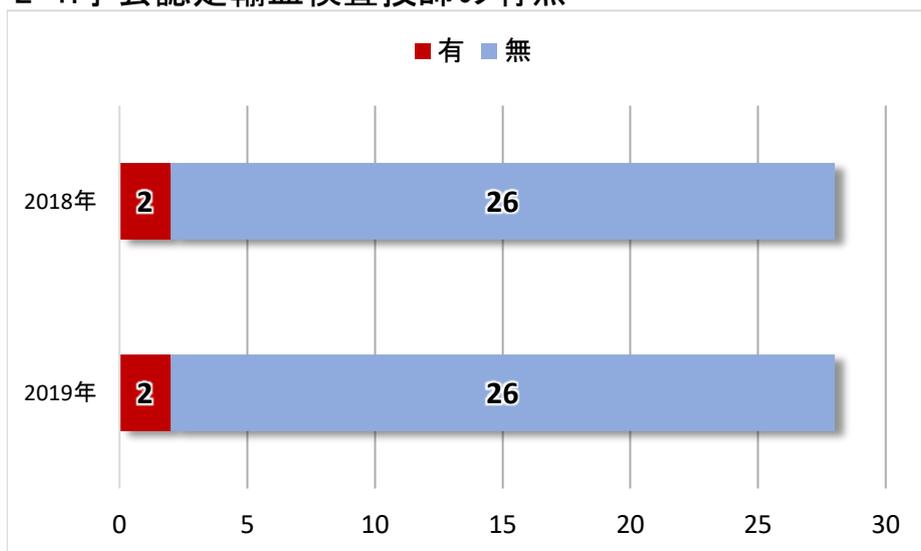
## 1-3.過去1年間の使用製剤



2018年と比べ、大きな変化はなかった。

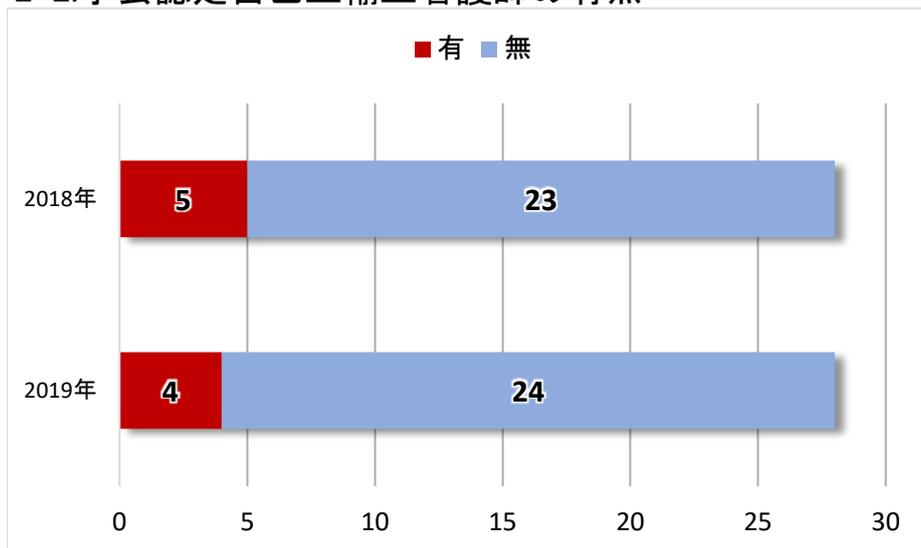
## 2.管理体制

### 2-1.学会認定輸血検査技師の有無



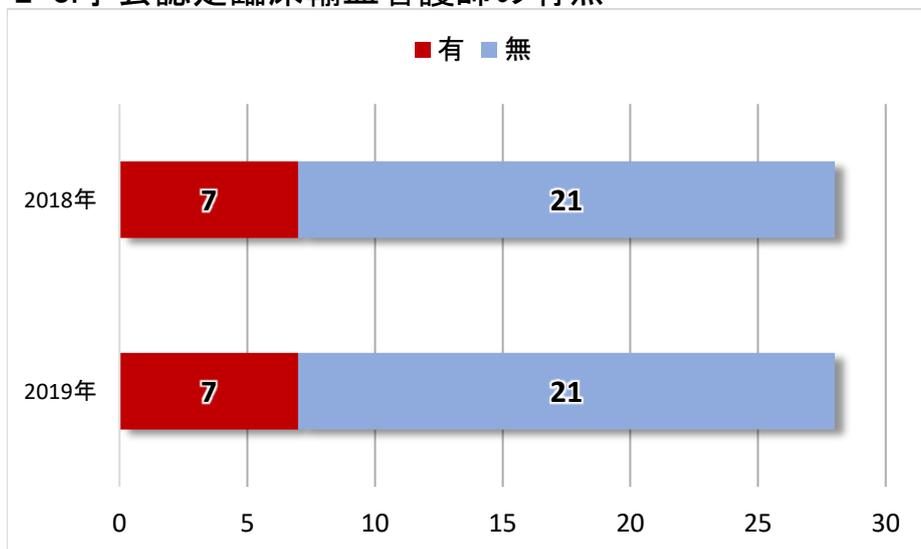
2018年と比べ、変化はなかった。  
輸血検査技師がいる医療施設は依然として少ない(2施設, 2018年8名, 2019年8名)。

### 2-2.学会認定自己血輸血看護師の有無



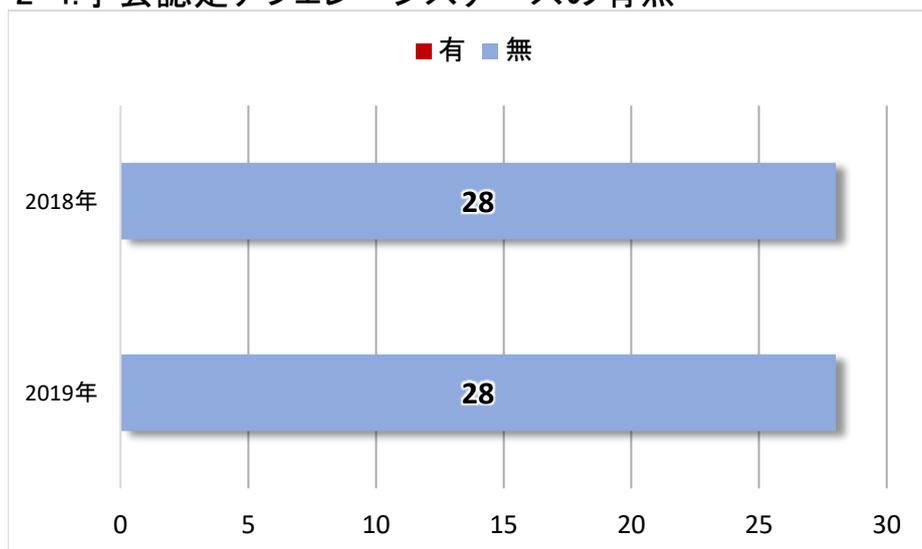
自己血輸血看護師がいる医療施設は1施設減少したが、人数に変化はなかった(2018年8名, 2019年8名)。

### 2-3.学会認定臨床輸血看護師の有無



臨床輸血看護師がいる医療施設数、人数に変化はなかった(2018年10名, 2019年10名)。

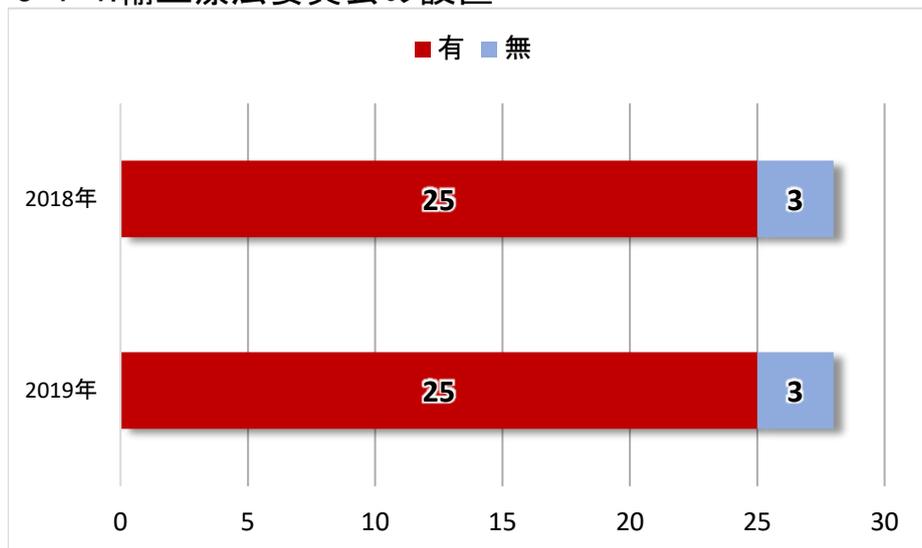
## 2-4.学会認定アフレーシスナーズの有無



岩手県で同看護師が所属する施設はなかった。

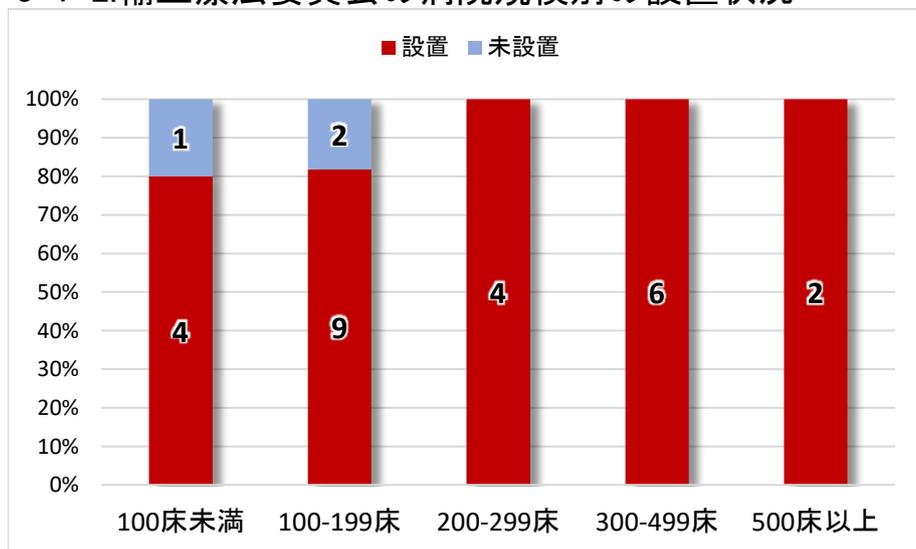
## 3.輸血療法委員会

### 3-1-1.輸血療法委員会の設置



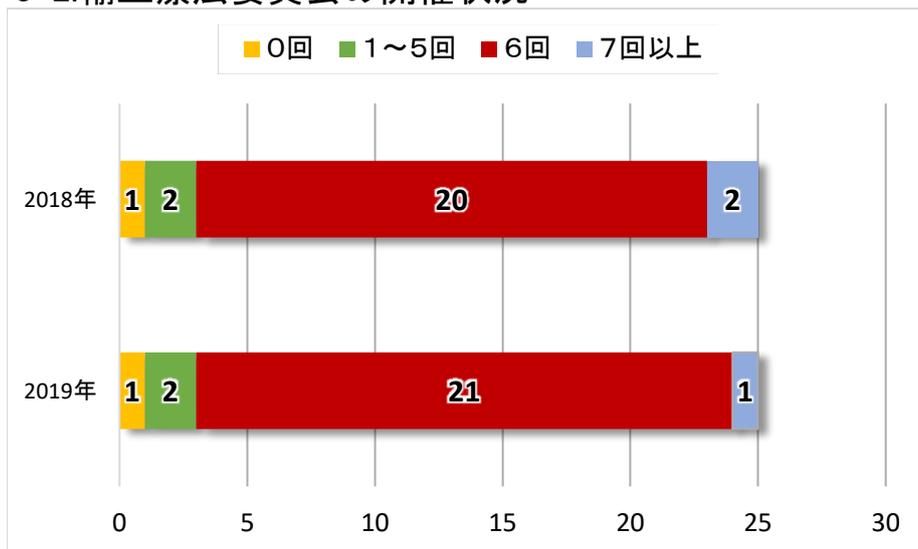
ほとんどの施設で設置されていた(25/28 施設, 89.3%)。

### 3-1-2.輸血療法委員会の病院規模別の設置状況



輸血療法委員会が設置されていないのは、200床未満の施設だった(100床未満1施設, 100~199床2施設)。

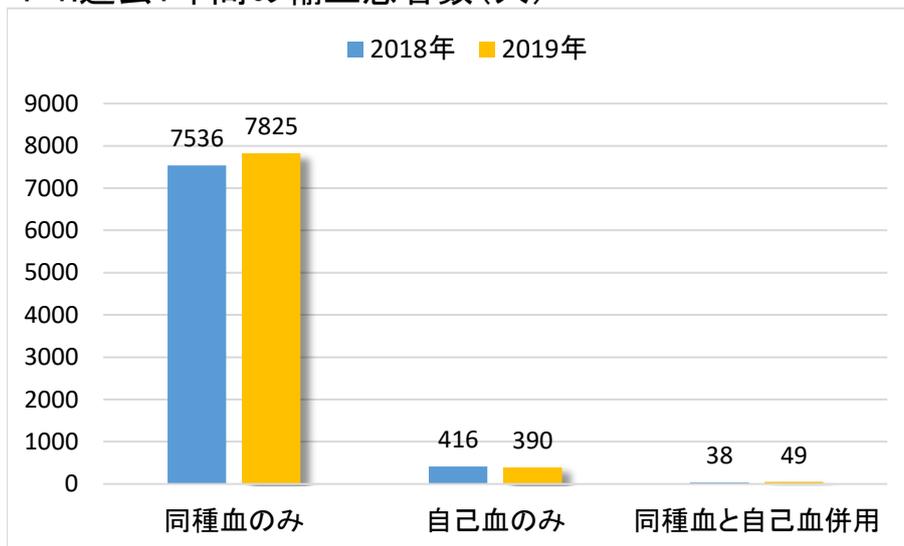
### 3-2.輸血療法委員会の開催状況



ほとんどの施設が年6回以上開催していた(25/28施設, 89.3%)。

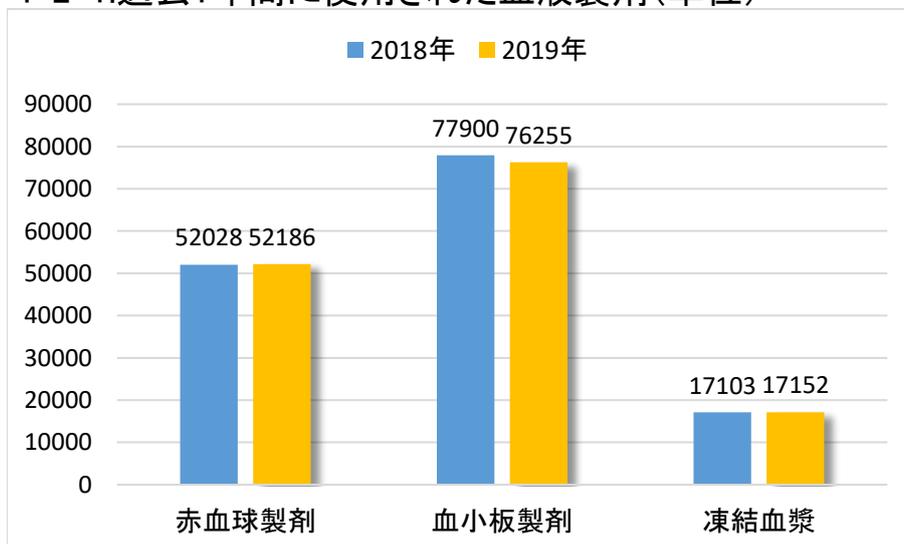
## 4.輸血療法の実績

### 4-1.過去1年間の輸血患者数(人)



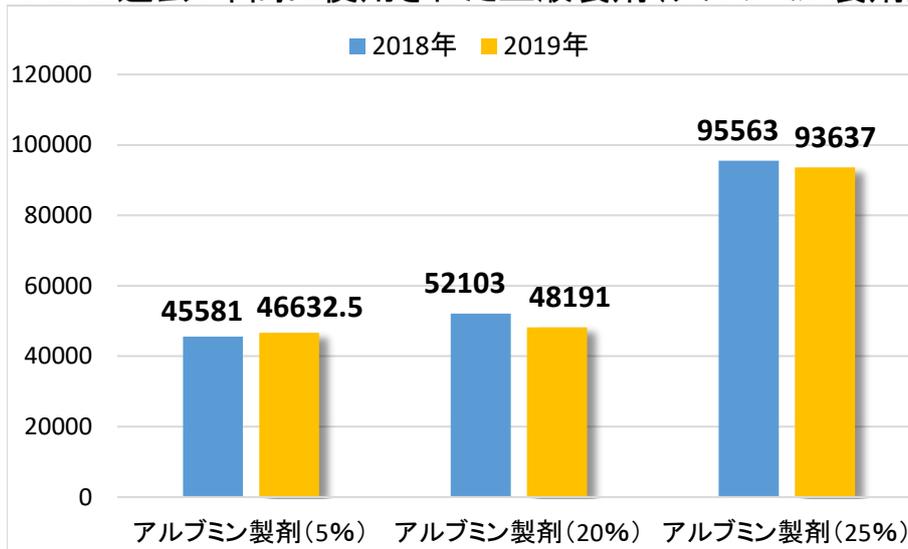
同種血のみ輸血された患者は若干増加(2018年7,536名, 2019年7,825名)したが、「自己血のみ」・「自己血と同種血」が輸血された患者は横ばいだった。

### 4-2-1.過去1年間に使用された血液製剤(単位)



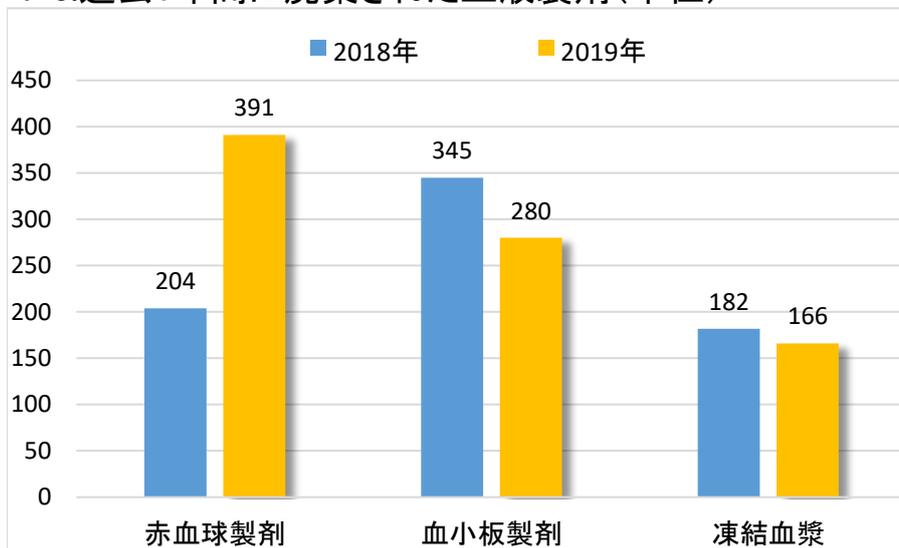
使用された血液製剤量は、赤血球製剤、血漿製剤ともに前年と同様であり、血小板製剤は減少した。

#### 4-2-2.過去1年間に使用された血液製剤(アルブミン製剤)(g)



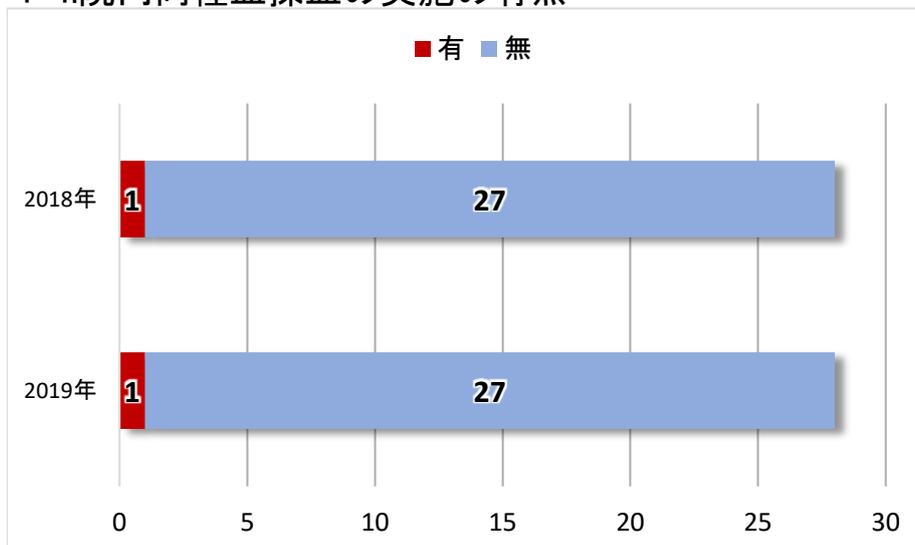
2018年と比べ、5%製剤は若干増加し、高張製剤は減少した。

#### 4-3.過去1年間に廃棄された血液製剤(単位)



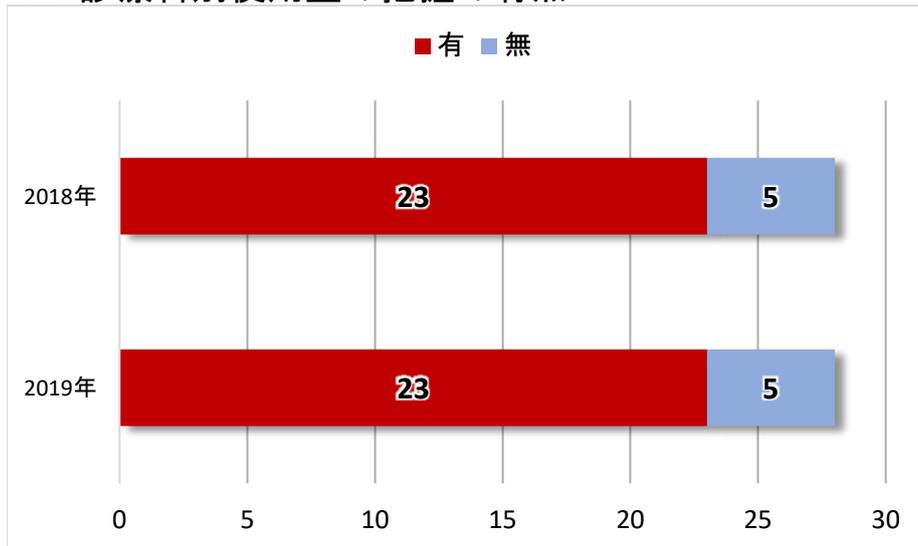
2018年と比べ、赤血球製剤は増加し、血小板製剤・血漿製剤は減少した。

#### 4-4.院内同種血採血の実施の有無



1施設のみで実施されていた。

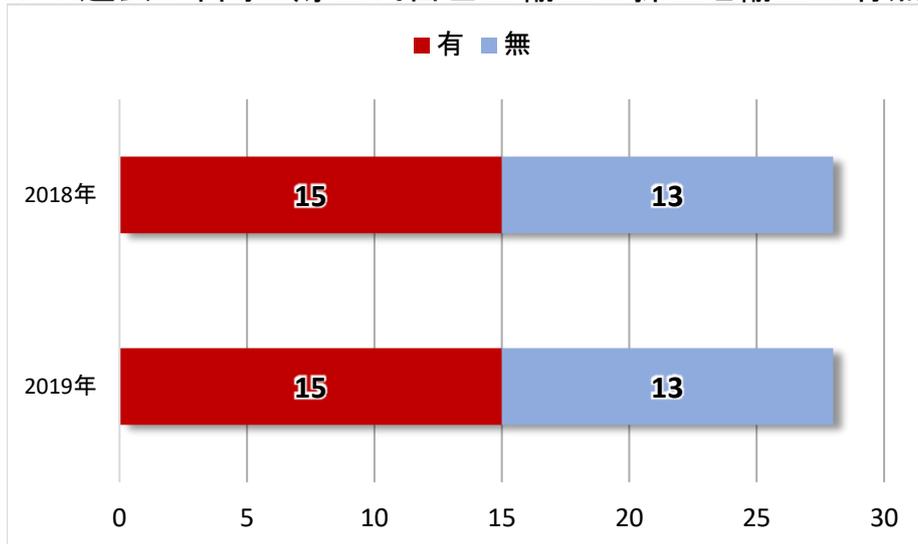
#### 4-5.診療科別使用量の把握の有無



多くの施設で把握されていたが、その割合は2018年と比べ変化はなかった(23/28施設, 82.1%)。

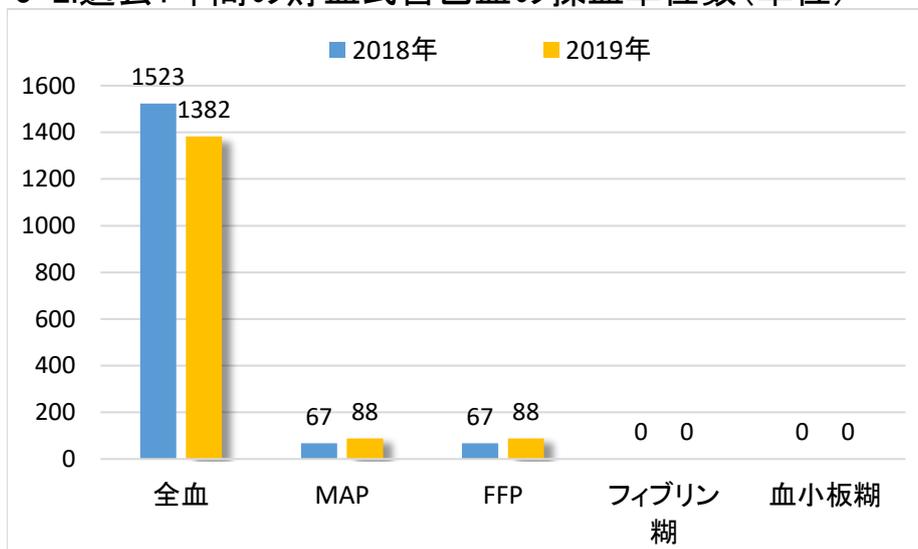
### 5.貯血式自己血輸血

#### 5-1.過去1年間の貯血式自己血輸血の採血と輸血の有無



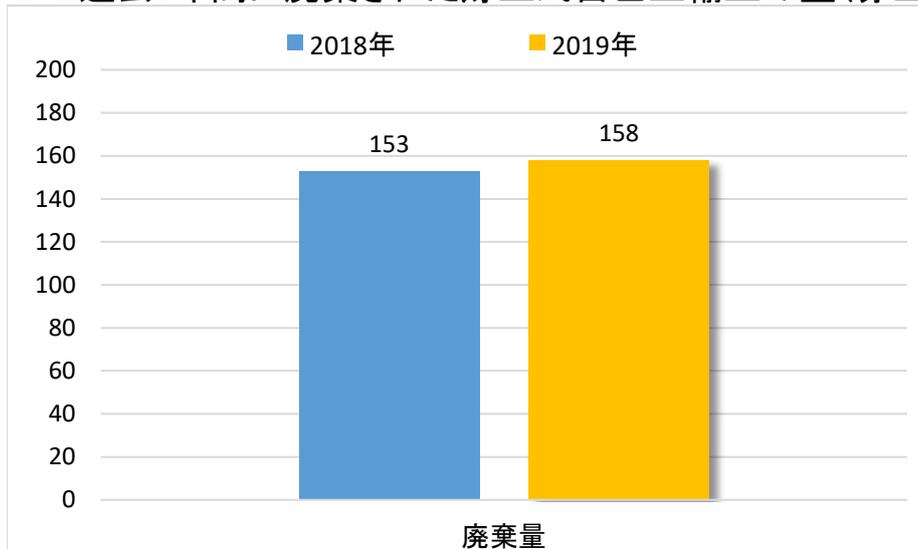
同輸血を行っている施設数に変化はなかった。

#### 5-2.過去1年間の貯血式自己血の採血単位数(単位)



2018年と比べ、自己血採血単位数は減少していた(2018年1,590単位, 2019年1,470単位)。

### 5-3.過去1年間に廃棄された貯血式自己血輸血の量(赤血球単位)



廃棄された製剤量に変化はなかった。

## 6.その他

### 6-1.輸血に関する課題、本委員会でとり上げてほしいテーマなど

- ・ 次の世代を作る人材の確保
- ・ 日当直時のフォローの仕方
- ・ URLにアクセスできないのでメール等で送信してほしい(スキャナーもないので)